

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103193
法人名	社会福祉法人 松恵会
事業所名	グループホーム ほのぼの
訪問調査日	平成20年4月18日
評価確定日	平成20年5月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670103193
法人名	社会福祉法人 松恵会
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地	鹿児島市西別府町1801番地 (電話) 099-283-7112
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年4月18日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市近郊の豊かな緑に囲まれた地に、母体法人が運営する特別養護老人ホームや関連グループの総合病院に隣接して建てられたホームである。特養の看護師や病院の医師、看護師との連携により医療面の支援体制が充実しており、入居者は安心して暮らすことができる。周辺に民家が少なく日常的な交流はさほど多く無いが、万に備えて地域住民と連携した防災協力会を組織するなど、地域に密着したホームである。理念が示すとおり、日頃から入居者と職員は勿論のこと、入居者同士が気遣い思いやる光景が見られ、いっしょに寄り添いながらゆったりと過ごすことのできる、温かくほのぼのとしたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題について、「地域とのつきあい」など、立地上の問題や入居者の身体状況の観点から未だ取り組み中の項目もあるが、管理者と職員が話し合いながら取り組んだ結果、多くの項目が改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員のみならず運営者の意見も聞きながら自己評価に取り組んでいる。自己評価は、それぞれの立場において日々のケアの振り返りの機会となり、外部評価を含めて、サービスの質向上に向けた取り組みのベースとして位置づけている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、ご家族、地域の代表、地域包括支援センター職員等、様々な立場の方が会議に出席しており、ホームの状況報告とともに評価への取り組み状況等も含め、サービスの質向上に向けた話し合いを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の面会時や電話で報告する際、遠慮なく意見や不満、苦情を言えるような関係づくりに努めている。また、苦情解決責任者を、直接サービスに関わらない同一法人の特養の施設長や理事とすることで、少しでも意見が出やすいように工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する特別養護老人ホームとともに、職員や入居者が地域の清掃活動を定期的実施している。周囲には同一法人の施設や関連の医療機関、学校等の他は民家がほとんどなく、日常的な交流はあまり行われていない。今後、運営推進会議等で地域の方々や行政の意見を参考にしながら、ホーム自体を交流の場として活用することなどについて検討していただきたい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員とともに独自の理念をつくりあげている。また、理念の実践のために、地域密着型サービスとしての具体的な目標を掲げ、理念とともにホーム内に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や台所、事務所等の目に付くところに温かみのある手書きの理念を掲示し、朝の申し送り等で唱和することでその共有に努めている。日々のケアにおいては、「いっしょに寄り添い・・・ゆったり過ごす」といった理念について、管理者及び職員が互いに気付いた都度注意し合うなど、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する特別養護老人ホームとともに、職員や入居者が地域の清掃活動を定期的実施している。周囲には同一法人の施設や関連の医療機関、学校等の他は民家がほとんどなく、日常的な交流はあまり行われていない。	○	運営推進会議等で地域の方々や行政の意見を参考にしながら、ホーム自体を交流の場として活用することなどについて検討していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員のみならず運営者の意見も聞きながら自己評価に取り組んでいる。自己評価は、それぞれの立場において日々のケアの振り返りの機会となり、外部評価を含めて、サービスの質向上に向けた取り組みのベースとして位置づけている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、地域の代表、地域包括支援センター職員等、様々な立場の方が会議に出席しており、ホームの状況報告とともに評価への取り組み状況等も含め、サービスの質向上に向けた話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターをはじめ、市高齢者福祉課や生活保護課の職員と連携して、行政からの情報提供による福祉バスの利用等、サービスの質向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の「園だより」の他、ホームの「ほのぼの便り」を季節毎に発行し、ホームの行事や入居者の日頃の様子を伝えている。また、日常の暮らしぶりや健康状態については、ご家族の面会の際や電話等で伝え、金銭管理の内容についても直接確認していただいたり、2ヶ月毎に出納簿の写しを郵送するなどしてそれぞれ報告している。	○	職員の異動に関する報告は、ご家族の面会時や年2回開催している家族会において実施しているが、遠方のご家族に対しても、電話やお便りを含め、個々にあわせたタイムリーな報告方法を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や電話で報告する際、遠慮なく意見や不満、苦情を言えるような関係づくりに努めている。また、苦情解決責任者を、直接サービスに関わらない同一法人の特養の施設長や理事とすることで、少しでも意見が出やすいように工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの管理者や職員による支援の大切さを認識しており、異動や離職を必要最小限に抑えるよう努めており、やむを得ない離職等に対しては、入居者のダメージを防ぐべく、介護経験者を優先した採用を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対しては、入職時のオリエンテーションの他、入職後1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月毎に、本人及び指導者が「業務評価表」に基づき現状を認識するなど、きめ細かな取り組みを行っている。その他の職員も、毎月、母体法人の開催する研修会やホーム独自のスキルアップのための勉強会に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び市のグループホーム連絡協議会に加入し、管理者及び職員が、それぞれの立場でネットワークづくりや勉強会での情報交換を通じてサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の多くは、元々隣接する特養のショートステイやデイサービスの利用者であり、それぞれの生活歴や特徴を十分把握するように努めている。また、入居前にはホームを見学していただき、雰囲気に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から、料理の仕方や方言、昔の風習等多くのことを学び、日々喜怒哀楽をともにしながら生活している。また、入居者同士がお互いを気遣い思いやる場面も多く見受けられ、それぞれが支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれの思いや希望を把握しながら、日々の暮らしを支援している。大半は入居者との生活の中で把握できるが、ご家族の面会時にもなるべく入居者について話し合い、本人の思いが実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週ケースカンファレンスを実施することで、2ヶ月に1回は個々の課題やケアのあり方について詳細に検討できる体制が築かれている。また、面会の都度ご家族の意向や希望も確認しており、それぞれの意見を反映した介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、毎週のケースカンファレンスや3ヵ月毎のモニタリング、日々の申し送り等を参考にしながら、計画期間の途中でも必要に応じて随時見直しを行い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の特養の看護師をはじめ、協力医療機関の医師や看護師と連携しながら、医療面での充実した支援体制を築いている。また、散歩を兼ねて隣接するデイサービスのマッサージ機を利用するなど、多機能性を活かした支援を実施している。		
s					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及びご家族が希望するかかりつけ医の定期的な受診を支援し、健康管理に努めている。また、緊急の場合を考慮し、協力医療機関においても定期健診を実施し、適切な処置を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合や終末期については、今のところ対応しない旨、入居の際にご家族を含めて説明し同意を得ている。但し、入居者の状態の変化に対し、特養の看護師と連携をとりながら、重度化した場合や終末期の対応について勉強会を重ねるなど、今後の体制について現在検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「プライバシー保護についてのマニュアル」や「個人情報保護法に関する諸規則」を整備し、入居者のプライバシーの確保について厳正に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを認識していただくべく、時間の声かけは行っているが、入居者の行動を制限することは無く、それぞれ好きな工作或や畑仕事、散歩など思い思いにその日を過ごせるように支援している。また、日頃対応できないような希望に対しても、個別処遇の週を毎月設けており、その人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に調理方法を教えていただいたり、盛り付けや配膳、後片付けを手伝っていただいたりしながら、職員も一緒に食事を楽しんでいる。誕生会では、誕生月の入居者の好きなメニューを用意するなどの工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を尊重しつつ、毎日のバイタルチェックにより入浴の可否を判断し、それぞれの健康状態に応じた入浴を支援している。事前のチェックで入浴が難しい入居者に対しても、清拭を行うなどして清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺繍や貼り絵、花や野菜づくりなど、それぞれの好きなことや得意なことを見つけ出し、日々の生活に張り合いや喜びを持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な方は毎日隣接するデイサービスに歩いて行き、マッサージ機を利用したり、ホームの畑に花や野菜を見に行くなど、できるだけ戸外に出るように支援している。毎月の個別処遇においては、墓参りや美容院に出かけるなど、希望に応じて対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることはなく、入居者は職員の見守りのもと、自由な出入りが可能である。外出しようとする際は職員が見守り、付き添うなどして一緒に外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の避難訓練を行っており、その内2回は消防署の立会いを受けている。隣接する特養とともに、地域住民と連携して防災協力会を組織している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士でもある管理者がチェックして、栄養バランスの取れた献立となっている。また、「日常生活での身体状況」表において食事摂取量や排泄をチェックし、入居者に応じた支援をしている。水分摂取に関しては、時間に応じた摂取を心がけ、摂取できていない場合、職員間で情報を共有して適切に摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が日頃多くの時間を過ごす共用スペースには、ホームに咲く草花等の飾り付けを行い季節感を演出している。テレビの音量はその都度入居者の意見を聞いて調節したり、明るい日差しもカーテン等で適宜調節して、居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた品物や仏壇を持ち込んだり、また、植物や花、趣味の刺繍の作品を飾ったりと、入居者が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。		